

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102113		
法人名	医療法人社団 静隆会		
事業所名	グループホーム 市野の家 (3ユニット合同)		
所在地	静岡県浜松市東区市野町 287-1		
自己評価作成日	平成27年9月1日	評価結果市町村受理日	平成27年10月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&IjigovoCd=2277102113-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年9月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「明るい笑顔、優しい対応、心のふれあいと家庭のぬくもりを大切に」を理念として、職員が共有して入居者様の日々の様子に配慮しながら、より良い生活が送れるように努めています。又、出来る限りご家族の方と意見交換をして、信頼関係を築けるよう心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

建物は風通しとともに陽当たりもよく、カーテンの開閉は利用者も手伝ってくれます。玄関入口には鼻腔をくすぐる秋明菊が活けられ、丸めた新聞紙に着色して「干し柿」に見立てたり、布を団子に模して立体的に飾っていたりと季節感満載です。「家庭のぬくもりと心のふれあいを大切に」したレクリエーションを毎日時間を決めておこない、その楽しい時間のなかで一人ひとりの想いや暮らし方の希望、意向の把握に努めています。ドミノを並べてハート型を作ったり、紙コップを天井付近までひたすら積み上げるゲームなど、リハビリの要素を加味した自然に手先を動かすアクティビティも多彩で「笑顔、あるサービスを日々実践しています。」

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	明るい笑顔、優しい対応、家庭のぬくもりと、心の触れ合いを大切にを理念として職員一人一人が日々のケアにおいて取り組んでいます。	月例会では、「明るい笑顔の接し方って何だろう?」と具体的に職員全員で考え、発表し合っています。帰宅願望から不穏になってしまった例では業務は一先ず中止して、寄り添って傾聴しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入していて、地域の行事の参加や日々の散歩等にて地域の方との交流も大切にしています。	三浦八幡宮秋まつりでは婦人会が届けてくれた抽選券を携えて皆で愉しんでいます。中学教師と密に連携しての職業体験やギターの弾き語りコンサートもあり、所内では鯉の解体ショーが賑わいをつくっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて理解して頂ける機会を設けています。 又、随時認知症の方の相談にも対応させて頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、日々の活動報告等をして、参加して頂いている方から、様々な意見を頂き、さらなるサービスの向上に活かしております。	「転倒事故について詳しく教えてほしい」と挙げた質問には、参加の行政担当者からアドバイスや指摘をもらうことができ、その後職員間で再発防止策を打ち出しており、隔月開催が活かされた事例もあります。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当の方とは、こまめに連絡をとり相談や報告をさせて頂いております。	長寿保健課だけでなく福祉課への用件があるため、市役所には月に4~5回出向しており、電話連絡は枚挙にいとまがないほどです。運営推進会議にも出席してもらっていて、入居相談が直接入ることもあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をしていて、日常のケアにおいて、職員一人一人が理解できるよう研修も行っています。	各居室にはベッドから足が降ろされるとセンサーが作動するようになっていますが、転倒リスクにはベッドを使わず、マットレスの上に布団を敷いています。またベッド柵は1点のみに留めています。研修では合議を通じて職員の考える力が養われていると管理者は感じています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修にて、虐待の防止について学ぶ機会があり、又日々のケアに問題がないか職員同士で、注意して防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時に必要な方において、活用して頂けるように促しています。制度についても説明させて頂いています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分時間を頂き説明し理解して頂けるように努めています。改定時においても同じように説明をして理解して頂けるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、面会時に意見交換するように努めている。 改善したことについては報告させて頂き、サービスに反映していけるように取り組んでいます。	利用開始後家具について検討し、持ち込んだ家族の例からは事業所になんでも言うことができることが覗えます。法人作成の『都だより』と併せ手紙を送付していることから、「嬉しい」との家族の声が届いています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会、管理者会議にて意見交換しています。	定着率が高く、10年以上勤務している職員が3名います。毎日10～15分のカンファレンスはリーダーから管理者に伝わり、給与や勤務のことは本部に窓口があります。最近では休憩時間の取り方を変更しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護保険制度の変化を考慮して、職員一人一人が向上心をもてる職場を目指しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ内の研修は、職員が希望する研修や全員参加の研修があり、外部研修の希望する職員には参加できるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との関わりを大切にして、意見交換している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の資料を基に今後、安心して生活して頂けるようにコミュニケーションを密にとり、より良い関係でいられるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接の段階から、安心して話して頂けるよう気配り心配りをしてより良い関係でいられるよう努めています。また入居されてからしばらくは、細かな事でも連絡させて頂き、ご家族や入居者様のご要望を叶えられるよう努力しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族と共に話し合いを持って希望に添った支援ができるよう努めています。またケアプランの内容を確認して頂き、ご指摘があればスムーズに改善させて頂いております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に本人の思いを大切に思いやりを持って接するようにしています。入居者様から、働いている職員というだけではなく、人間味のある1人の人間として暮らしを共にさせて頂いております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思い、また本人の思いを常に念頭に置き話し合いを持ちながら、より良い支援ができるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブなど出来る限り入居者様の思い入れのある土地に触れる機会をもち、また情報を収集することで会話の中に馴染みの人や場所の話を出すように心掛けております。	利用者の趣味に職員が付き添ったことも過去にはあり、今でも「自宅を見に行きたい」「旧友と書簡交換をしたい」「珈琲が好き」との願いに応え、家族の協力も仰ぎ習慣が続くよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合った利用者同士の関係等はより良い関係でいられるように温かく見守りしながら支援し、1人でいたいような入居者様にもうまくアプローチし、孤立することが無いよう個々に合ったケアをさせて頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も、何かあれば連絡を連絡を頂くように声をかけております。また実際に連絡を頂いた際には、出来る限りの御協力をさせて頂いております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ、言葉や表情の変化や印象などから希望や意向を汲み取るように努めています。	マニキュアを見て「やってみたい」という思いが表出した例があり、自身の爪に色が塗られていくのを非常に喜んだことがあります。また男性職員では物足りなくなり地域の将棋クラブへの参加を検討中の利用者もいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り本人から聞き取りを行い、家族からも生活歴を伺い、それまでの生活になるべく近い生活リズムで生活をして頂いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者1人ひとりの生活リズムを理解し、行動、言葉、表情からその人の現状を把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人からの聞き取りと家族の意向を聞き、モニタリングを参考に職員が記録した個人別介護記録を反映させ介護計画を作成している。	介護記録、利用者個別の詳細記録、時には排尿チェック表や睡眠チェック表も取り入れ、現状に即したプランを作成しています。介護記録には第2表を貼り付け、職員がケアの全貌や方法がわかるようにとの工夫があります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の記入を行い日々の様子を把握し、傾向や変化に気づき、それを基に職員間でしっかり話し合うようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の代わりに受診支援、緊急時の対応、個別の買い物支援を柔軟に行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周辺地域の機関からの協力と理解が得られるように運営推進会議などにかたりかけています。また、ボランティアの方にも協力頂きふれあいコンサート等行いながら楽しんで頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常に状態観察により、体調の把握、異常の早期発見に努め医師との連携、情報交換がスムーズに行われ適切な医療を受けることができるよう努めております。	大半が協力医に移行しており、かかりつけ医を継続の3名については家族に付き添いをお願いしています。また在宅酸素を使用する人の往診が週2回、また訪問看護師が週2日来訪しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回看護師による訪問があります。その時、日々の心身の状態や情報付きを伝え、指示を受けながら入居者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族、医療機関との連絡を密に取り、早期退院に向けての話し合いを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、状況によりご本人やご家族の意向に添い、ターミナルケアを行う事もあります。	食事が摂れなくなった場合や点滴が必要になった時には、重度化と判断しています。家族には「できれば夜間は寝泊りして一緒に過ごしてください」とお願いし、また未経験の職員には心の持ち方やケアをベテランが細かく教えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署指導のもと、年に1度AEDを使って蘇生訓練を行っています。急変時には、各館職員が協力、応援に入る体制を整えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害についてのマニュアルを用意し、年2回防災訓練を欠かさず行っています。	昼、夜の想定で年2回、計画に基づきおこなっています。通報・避難・消火器の取扱い・設備説明と総合的に行い、消防職員を招いたり、テーマを決め「何分までできるか」と実計測したりと、アイデアが光ります。	地域の防災訓練にも出向き、自主防との連携をさらに深めるとともに、備蓄のメニューやボリュームについて見直されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様1人ひとりの人格を尊重し誇りや、プライバシーを損ねないような言葉遣いや支援を心掛けています。	年長者が若い職員に対して関わりを指導するOJTが自然におこなわれ、「どんな気持ちがある？」と同じ状況を体験させることもあります。汚れた衣類や乱雑にしてしまった居室、失禁にはそっと片付けをおこなっています。	職員のマニキュアは“刺激、として功奏しましたが、身だしなみや言葉遣いなどの接遇には課題があると受けとめられます。研修や話し合いに力を入れることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が今何をしたいのかを聞きながら、ご本人様が自己決定が出来るように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の決まりや都合を優先するのではなく、1人ひとりのペースや体調を大切にしながら、本人の希望に沿って自由に過ごせるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい個性を大切に身だしなみや、お洒落を楽しんで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味はもちろんの事、盛り付けにも気を配っております。お好きな物を聞いて日曜日のメニューに取り入れたりしています。	食材購入では業者を3社利用しており日曜日以外は調理品が配達されていますが、味付けや硬さ、大きさは利用者に合わせて職員が仕上げています。行事食が月1回あり、今月は栗ご飯がメインの『秋彩御膳』でした。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分量を常に記録し変化がないか気を配っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの声掛け、介助、義歯の手入れを行っています。必要があれば歯科受診を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄の習慣を把握し、トイレ誘導、声掛け、介助を入居者様ごとに行い自立に向けた支援を行っています。	トイレは各階に2ヶ所、可動式手すり付で配され、またパットは居室に置いてありスッキリ整理されています。水分補給とともにゼリーやヨーグルト、酢の物、果物を提供して便秘対策にも余念がありません。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便があった日はチェックし、職員間で把握して、散歩、体操など便秘に良さそうなものは随時取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調に注意しながら、ご本人の希望があれば出来るだけ入って頂けるように支援しています。	希望があれば毎日利用することもできますが、概ね1日おきです。洗身用タオルは各自のものが用意され、シャンプー、リンスは皮膚疾患の理由から固有のものを使う人以外は共有です。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々の居室や共有のスペースのソファで、自由に休憩をとって頂き、夜間は安心して気持ちよく眠れるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師から処方された薬の目的や、副作用、用法、用量について把握し、必要な服薬支援を行い、症状の変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の出来る事、好きな事を探りながら、日々の生活の中で、役割や気分転換をして頂けるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り本人の希望に添って買い物や散歩など、外出をして頂いております。	受診帰りに薬局やコンビニエンスストアに立ち寄り、好みの菓子を買ったり、初詣には三浦神社、春・秋の遠足では飯田町や浜北区の公園に出かけています。いずれも3～4名の小グループでの外出です。	日々の散歩や外気浴の重要性について改めて職員間で話し合い、まずは希望の声で凸凹がでないよう、戸外活動の頻度を個々に記録し省みることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は、紛失・盗難の恐れがある為、職員が管理していますが、買い物に出かけた際には、本人に支払いをして頂くようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、電話共にいつでもご自由に書いたりかけたりして頂いております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花、植物を生けたり、掲示物にも季節感を取り入れ、1~2ヵ月ごとに新しい掲示物に変えております。	風通しとともに陽当たりもよく、カーテンの開閉は利用者も手伝ってくれます。鼻腔をくすぐる秋明菊が活けられ、丸めた新聞紙に着色して「干し柿」に見立てたり、布を団子に模して立体的に飾っていたりと季節感が満載です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者様同士で過ごして頂ける環境を整えたり、1人で過ごしたい入居者様には、そのような環境を整えたりして支援をさせて頂いております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物や好みの物を持ってきて頂き、安心し居心地良く過ごせるように支援しています。	ベッド、エアコン、クローゼットが備え付けられていますが、ベッドやファンシーケースを持ち込む人もいます。孫の写真や造花、仏壇、大切にしまわれた折鶴と、その人なりの居室を視認しました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレを示す表示や居室前の名刺で、入居者様が分かるように工夫をしています。		